

総合特別区域の進捗に係る評価
[ライフ・イノベーション分野]

令和3年度

先導的な地域医療の活性化（ライフイノベーション）総合特区

[指定：平成24年7月、認定：平成26年3月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(4.5+4.5)/2=4.5$

4.5

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	医師不足対策及び在宅医療の推進	115%	5
2	糖尿病対策の推進	86%	4

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 1 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 2 = 4.5$

4.5

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、
c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.5

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(3.8+3.8+3.6)/3=3.7$

3.7

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.8

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.8

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.6

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.2

- ・糖尿病手帳導入医療機関数の増加がコロナ下でも進んでいることは評価できる。
- ・コロナ禍のなかで中止されていた研修が再開され、事業の継続的な推進が図られなか成果の達成がみられる。目標設定に沿う形で、人材養成の成果を上げている。人材育成のアウトカムの描き方の工夫に期待したい。
- ・糖尿病は重要な国民病の一つであり、一貫した取り組みは高く評価される。その一方で、取り組みに見合う成果が得られるまでに時間を要するのではないかと危惧している。マイルストンの評価目標などがあればと思う。
- ・実証実験で有用性が確認できた5G遠隔診療に関しては、今後その展開による地域医療支援の充実および医療の質の向上に期待したい。
- ・医師不足対策における修学資金貸与について、医師不足地域での勤務者数、県外の場合の現在の勤務地など長期的な事業の結果についても情報収集が必要なのではないだろうか。
- ・糖尿病研究成果を活用した製品・サービスの事業化件数は、算定の要件をもう少し詳細に記載してほしい。
- ・糖尿病の管理は日常生活全般にわたる指導が必須であり、医師不足地域での糖尿病対策には、医師以外の職種の働き方について踏み込んだ検討が必要ではないか。患者ニーズや改善すべき課題など、住民の生活を十分に把握するための調査等が必要ではないか。
- ・特定行為研修を修了した看護師数(数値目標 1-2)が増えたことによって、実際に特定行為が行われ、医療の質の確保や従事者間の業務負担の最適化につなげられているのかどうかを、定性的にでも評価/確認いただきたい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.2

総合評価

I、II及びⅢを1:1:2の比率で計算 $(4.5+3.7+4.2 \times 2) \div 4=4.2$

4.2

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5~1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。